

令和 8 年度県立病院事業評価委員会からの評価・提言内容

令和 8 年 9 月 3 日
県立病院事業評価委員会

委員から出された評価・提言等の概要は、次のとおりです。

【評価】

令和 7 年度の病院事業については、患者数の減少や物価・賃金の上昇等の影響を受け、その経営は非常に厳しい状況となっている。

病院局及び各病院においては、全県あるいは地域の中核病院として、県民に高度で良質な医療を安定的に提供し、その使命を果たしていただくよう要望する。

そのためには、経営の健全性の維持が大前提となるので、改定した経営計画に基づき、経営改善の更なる加速をお願いする。

【意見・提言】

1 令和 7 年度県立病院事業の実施状況について

2 「宮崎県病院事業経営計画 2021」に基づく各県立病院の取組状況について

- アドバンス助産師は、産科領域で必要なリソースであるので、育成状況についても資料に記載してほしい。
- 県南地域の公立病院のあり方の検討について、どのような議論がなされているか、市民に伝わっていない。もっと議会や報道を通じてアピールしてほしい。
- 宮崎病院については、診療科別の年次推移を見ながら適正な診療科のあり方を考えていく必要がある。
延岡病院については、自治体病院の中では極めて健全な経営であると感じている。様々な取組もされており、医師数・看護師数に対しての診療報酬も高い状況である。稼働率はもう少し上がるよう頑張っていたきたい。
日南病院に関して、将来的に人口が 5 万人に満たなくなる地域にどの程度の急性期病院を置くかというのは今後の課題となる。2040 年を見据えてしっかりと整理していくことになるのかと考えている。
- 宮崎病院について、経営指標のうち DMA T チーム数が、令和 7 年度は令和 6 年度から 4 チーム減っている。人事異動によるものと思われるが、チームの編成を踏まえた人事異動の検討ができないか。

- 人口減少や人手不足、物価高騰などで厳しい状況であるが、延岡病院は市民を巻き込んで取り組んでいただいている。

地域に病院がなくなるのは大変なことであり、市民側も地域の病院を使うことが重要であるとする。

- 費用を削減するだけでなく、収益を上げることも検討が必要である。

医師の確保により患者を増やしていくことや、テナント等で収入を上げる取組ができるとよい。